

2 頸髄損傷者に対する地域支援の現状と課題について

～地域病院との連携構築に向けて～

別府重度障害者センター 医務課 阿南誠二、浅野圭司、松浦幸三、岩下裕造

【はじめに】

別府重度障害者センター（以下当センター）では頸髄損傷者に対する機能訓練を中心にサービスを提供している。昨今、地域の病院から当センターでの研修を望む声があがっていたが、コロナ禍もあり施設内での研修受け入れは困難な状況であった。そのため、療法士等を派遣した対面での研修会や実務指導等を開始することとなった。その取り組みや研修後のアンケートを通して当センターへのニーズや今後の国立施設と地域病院の連携や情報発信のありかたの課題が見えてきたため報告する。

【取り組み】

久留米リハビリテーション病院では 2022 年度に頸髄損傷者のリハビリテーションの基礎講習として理学療法士と作業療法士を派遣し講習を実施。2023 年度は理学療法士と作業療法士が評価や頸髄損傷者の動作訓練、住環境調整などについて 2 回ずつ計 4 回の講習を実施。2024 年度は治療場面での介入や住環境整備指導を作業療法士派遣にて計 6 回実施計画であり、治療参加や住宅訪問調査の同席及び助言、ケースカンファレンスへの参加等の取り組みを実施している。また、この年より病院からの研修として医師・理学療法士・作業療法士・ピアカウンセラーなど計 3 回の研修受け入れを予定としている。2025 年度以降も継続して連携を行っていく計画である。

別府リハビリテーション病院では、2023 年度に頸髄損傷者に関する基礎講習として理学療法士・作業療法士・社会福祉士を派遣し講習を実施。2024 年には当センターや利用者の生活や訓練後の帰結に関する紹介や、頸髄損傷者の理学療法および作業療法訓練の総論についての内容で講習を実施。2025 年以降は実務に関わる連携を展開する計画である。

【アンケート調査（久留米リハビリテーション：2023 年度実施）】

アンケートは職種を問わず合計 58 名からの回答を得ることができた（研修参加有無問わず）。回答者の多かった理学療法士・作業療法士・看護師に関する当センターに求める連携支援として、理学療法士では「頸髄損傷者の動作別アプローチの具体的介入手法」「頸髄損傷者の動作別アプローチの介入方法」「頸髄損傷者支援の介入の一連の流れ」、作業療法士では「自助具作製指導」「住環境整備指導」「ミーティング・カンファレンスへの参加および助言」、看護師では「事例紹介」「頸髄損傷者への動作別アプローチの介入方法」「頸髄損傷者支援の介入の一連の流れ」がそれぞれ多い結果であった。また、研修に参加できない理由としては、開催の時間帯が合わないことや勤務日などの都合が最も多かった。

【まとめ】

本取り組みは、地域との連携や国立施設としての情報発信の取り組みとして試験的に実施している。病院や職種ごとのニーズがあり、頸髄損傷者支援に対するニーズ開拓やシームレスな地域連携、利用者開拓につながると考える。また、今後は国立施設が頸髄損傷者の中核機関としての役割を積極的に担える展開につながるよう、実績を積み重ねていきたいと考える。